



エピソード

A 児はサラ砂に水を混ぜたものを6個のおわんに入れてごちそうを作ることを楽しんでいました。保育者が「何作っているの?」と聞くと A 児は「先生にあげるけど、まだ秘密」と言い、サラ砂と水を交互にお椀の中に入れていました。お椀の中にサラ砂がたくさん入ると「これは、水入れないといけないわ」と言い水をカップで少しずつ入れていました。その後、手でお椀の中の砂を触り、何も言わずに一度入れた水を元のバケツに戻しました。その後も、真剣な表情で水を入れ替えたり、サラ砂を足したりしながら、1回ずつお椀の中の砂におたまやトングを入れて考えていました。しばらく見守ったあと、保育者が「どうなったら出来上がり?」と聞くと A 児は「まだまだやねん」と砂を触りながら答え、その後もお椀に交互に水やサラ砂を出し入れしながら身近なままごとの用具で砂の様子を確かめる姿がありました。しばらくして、「あ!」と言った後に「先生、触ってみて」と言い、保育者が砂を触ると「めっちゃ気持ちいいやろ?」と満面の笑みで言う姿がありました。

家庭だったら・・・

・公園に行ったときなどに、砂や泥と一緒に触って感触の違いを感じてみてください。子どもたちならではの擬音語や大人とは違う感じ方に気付くかもしれません。

子どもの育ちや学び

- ・以前つくった砂の固さになるように、サラ砂と水の量を調整する姿がありました。また、固さ(感触)を確かめるために身近な道具(トング、お玉等)を使って、それぞれに感じる感触の違いを確かめていました。
- ・自分のイメージしたものを自分なりに試して集中してつくり、できたものを保育者に見せることで達成感を味わっていました。

保育者の思い

- ・A 児がごちそうづくりをしているのか感触を楽しんでいるのかを探りながら声を掛けたり見守ったりしてきました。
- ・自分なりに試す姿があったので、あまり声を掛けすぎず、じっくりと探求してほしいなと思い、見守っていました。
- ・いろいろな用具を用意し、十分に遊べるようにしてきました。保育者の思いとは違う新しい使い方をしていく姿を見守り、認めながら身近な環境を使って遊びを進めていってほしいと思います。